

認知症の早期発見について

認知症予備軍とされる「軽度認知障害」の段階から発見して治療や生活習慣の改善を行う事が有効とされる。鳥取県琴浦町では、高齢者自ら気軽に操作できる簡単なタッチパネル式装置を使って軽度認知障害を発見し、その段階から週1回の脳リハビリ教室を紹介する取り組みを行っている。荒川区でも早期発見に取り組み、週1回程度活動する（仮称）いきいき推進グループを多数登録してもらうことを目標にしたらどうか。いきいきサロンや趣味のサークルなども活用し、リーダー養成、地域コーディネーターの確保が必要だろう。

区：東京都の聞き取りによる初期診断を取り入れる。認知症予防に効果のある取り組みへの働きかけや講習等の支援をすすめる。

当事者の気持ちを知る講座と物忘れ散歩高齢者の搜索について

認知症の正しい理解と支援には当事者の気持ちを理解することが大切。「気持ちを知る」と銘打った講座やワークショップを開催して欲しい。物忘れ散歩（いわゆる徘徊）高齢者が出た時に協力してくれる区民にメールやFAX 配信の体制をつくったらどうか。

区：介護者間交流の場を増やし、介護者相談会などで理解を広めていく。徘徊高齢者を発見できる体制づくりは、地域の協力を得て、警察と協議をすすめる。

暴力防止教育について

「体罰・いじめは人権侵害」意識の徹底を

区内中学校でも体罰が判明した。教職員・児童生徒・保護者に「体罰・いじめは許されない人権侵害である」ことを徹底してほしい。

区：周知徹底につとめ、体罰といじめの根絶にむけて全力で取り組む。

アンガーマネジメント（怒りの感情と上手につきあう心理教育）の導入を

教員の体罰については、怒りの感情をそのまま児童生徒にむけてしまうことが原因。感情をコントロールするために、1970年代にアメリカで始まったアンガー（イライラ、怒りの感情）をマネジメント（上手につき合う）ための心理教育が話題となっている。日本の企業や自治体でも研修にとりいれているところが増えてきている。子ども向けプログラムもある。怒りの感情の原因を学び、いらいらと上手につきあう訓練が必要なのではないか。

区：アメリカでは老若男女を問わず活用されていると聞く。調査研究を進め、児童生徒の教育に生かしたい。

禁煙の推進について

喫煙所の再検討を

がん予防、生活習慣病予防のほか、様々な面で一番効果があるのは、禁煙。他の区に比べて喫煙率の高い荒川区は、さらに、禁煙対策を推進するべき。喫煙所設置については、原則的には、たばこ産業が、民間の敷地を借りて喫煙所を設置するべきで、区の設置する喫煙所はできるだけ縮小の方向が望ましい。公園に設置してある喫煙所も検討すべき。

区：公共施設内には喫煙所を設置すべきではないと考える。

せの：公園も公共の場である。禁煙への理解を求めながら、喫煙所は縮小するべきである。

22日＝スワンスワン（吸わん吸わん）の日の取り組みを

日本癌医学会をはじめとする19の医療学会が構成する禁煙推進学術ネットワークは、スワンスワン（吸わん吸わん）で禁煙を！をスローガンに、毎月22日を「禁煙の日」にしようとしてよびかけている。区でもとりくんだらどうか。

区：あらゆる機会を通じて禁煙対策の普及に努めていく。

